

川崎マリンロータリークラブ



2023~24年度 RIテーマ



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度 RI会長
ゴードン R. マッキナリー

例会 毎週木曜日 12:30

例会場 煌蘭 ダイスビル 6 F

TEL : 044-245-0018

事務局 〒210-0004 川崎市川崎区大島1-26-13-1F

TEL : 044-200-9249 FAX : 044-200-9252

E-mail marin-rc@eagle.ocn.ne.jp



会長
茶谷龍太



副会長
小山宏明



幹事
西尾 猛

- ★司会 増田敏雄 会員
- ★点鐘 茶谷龍太 会長
- ★ロータリーソング「我らの生業」
ソングリーダー：御幡幸男会員 ピアノ：瀧口幹子会員
指揮者：中條藝立会員

ハイブリット例会

ゲスト紹介

茶谷龍太 会長

- 川崎市立川崎高校 教頭 成田 滋 様
- 川崎市立川崎高校 教諭 松田 遥香 様
- 川崎市立川崎総合科学高校 教頭 田村 正一 様
- 川崎市立高津高校 教頭 斎藤 康子 様
- 川崎市立川崎高校4年生 五十嵐 南 様
- 川崎市立高津高校4年生 川口 和子 様

ビジター紹介

山崎美津夫
親睦活動担当委員

- 神奈川東ロータリークラブ

赤堀 伽寿一 様



出席報告

小松崎彩子 会員

会員数	出席率 該当者	出席者	欠席者	ホームクラブ 出席率	マーク アップ	修正 出席率
36	32	25	7	78.13		
(備考)						

会長ノミニー選出

御幡幸男 直前会長

- 会長ノミニー(次々年度会長)の選出を行い
松下和喜会員の立候補により決まる。



会長報告

茶谷龍太 会長

- 地区大会、3クラブ合同親睦夜間例会のご出席ありがとうございました。
- 12/12(火)に地区ロータリー財団補助金管理セミナーが開催される。会長、小山副会長が出席予定。
- 来年1/10(水)に「新春4クラブ合同例会」が開催される。みなさまご参加ください
- 地区大会の表彰・紹介の発表
(2023.11.11 Vol.31 No.13 1384 週報を参照下さい)
- 米山功労クラブ感謝状の報告と米山功労者への感謝状授与。
第1回功労者：瀧口会員 第3回功労者：山崎会員
第4回功労者：伊藤会員 第6回功労者：西尾会員
第8回功労者：河口会員
第9回功労者：野口会員 鈴木会員



幹事報告

西尾 猛 幹事

- 本日18時より、第4回会長幹事会が開催。
茶谷会長と参加する。
- 本日、理事会。理事メンバーはお残りください。
- 次回の予定
12月7日 年次総会

*近隣RCからのお知らせ

- ありません
- *週報を送ってくださったRC
- ありません

今後の予定

- ◎12月 7日 年次総会
- ◎ 14日 外部卓話
社会福祉協議会 地域課 佐藤様
「食料支援」について。
- ◎ 21日 クリスマス家族会
- ◎ 28日 休会(定款細則)

委員会報告

○ロータリー広報雑誌担当委員 小枝義夫 会員

- ・ガバナー月信Vol.5には当クラブの会員の掲載記事があります。
P6 小山副会長
P10、11、13 鈴木会員
P14 小松崎会員



ニコニコボックス

小山宏明 副会長

★本日はお世話になります。
(神奈川東ロータリークラブ 赤堀 伽寿一 様)

- ◆野口会員
旅行のおつりです。
- ◆増田(敏)会員
本日は定時制高校の皆様においでいただき卓話をしてもらいます。日頃よりあたたかなご協賛をしてくださる川崎マリーンRCの会員の皆様に感謝申し上げます。
- ◆松下会員
本日の卓話ががんばってください！！
- ◆鈴木会員
ようやく卓話月間が終わりました。法人会の方にはお願いです。今晚、日航ホテルで法人会青年部会主催の猫ひろしのトークショーを行います。空いていたら来てください。会費5000円、17:30からです！！
- ◆山崎会員
本日はお忙しい中卓話へ来ていただきありがとうございます。五十嵐様、川口様、本日は楽しみにしておりました。卓話、宜しくお願ひ致します。
- ◆増田(洋)会員
名古屋の子会社が創立50周年を迎えることが出来ました。
- ◆森山会員
初スマです。よろしくお願ひします。
- ◆茶谷会長 西尾幹事
川崎市立川崎高校の五十嵐さん、川崎市立高津高校の川口さん本日の卓話宜しくお願ひします。
- ◆小山副会長
先日の地区大会、7RC親睦ゴルフ大会、3RC合同夜間例会富津シティRC合同「東京歴史めぐり」に御参加の皆さま、お疲れ様でした。本日は定時制高等学校の皆さま、卓話楽しみです(O)

本日のニコニコ 14,330円

累計金額 271,330円

本日の卓話

川崎市内定時制高校生の卓話

○川崎市立川崎高校4年生
五十嵐 南 さん

『自分を認める』



○川崎市立高津高校4年生
川口 和子 さん

『出会いと挑戦』



川崎総合科学高校 教頭 田村正一 様
川崎高校 教頭 成田滋 様
高津高校 教頭 斎藤康子 様
川崎高校 教諭 松田遥香 様



クラブ会報担当委員: 林 伸彦

定時制高校生による卓話

川崎市立川崎高校4年生 五十嵐 南 さん

『自分を認める』

聞いている人にとっては、数分後、よくて数日後には忘れてしまう話かもしれない私は自己肯定感が低かった。自己肯定だと思ってしていたことが、正当化だった。自分を正当化することで、自分の存在を肯定していた。中2の夏から、学校にはいかずに、家に閉じこもっていた。たった、1時間、学校に行くだけで周りは偉いって褒めてくれた。プリントを届けに来てくれた先生に挨拶をただけで褒めてくれた。挨拶くらい、流石に私でもできる。どう考えても偉くない。毎日学校に行ってる人がいるのに、数ヶ月ぶりに、たった1時間の授業を受ける、私のどこが偉いのか。会う人みんなが、「あなたは既に頑張ってる。もっと自分を褒めてあげて」って言って来たそんな言葉、素直に受け入れられるわけがなかった。周りの人は当たり前でできていることすら満足にできない私のどこを褒めればいいのか。なにより、そこで自分を褒めたらそんな自分を認めたことになるのが嫌だった。そんな日々が続くうちに、自己肯定感は低くなり、自分を素直に受け入れられなくなった。そのくせ、私は褒めてくれる人のことが好きだった。こんな私を認めて、褒めてくれる人がいるという安心感に甘えていたし、依存をしていた。自分の弱いところを聞いてもらって、褒めてもらって、このままでも大丈夫なんだ、変わらなくていいんだ、と楽な気持ちになっていた。本当は良くないことだとわかっていた。自分を正当化して現実から逃げているとわかっていた。人の目線が怖い、人前で話すと声が震える、すぐに涙が出る。そんな私のままで大丈夫なわけがない。どう考えても変わった方がいい。それでも私は、どうしてもそんな自分を認めたくなかった。高校2年生の時、ある先生に「私、自己肯定感高いよ」と、ふざけて言ってみた時、「お前は取り繕ってそう見せているだけだ」と返されたことがあった。自分を正当化して無理やり肯定していることを見透かされたような気がした。そのときの私は、「自己肯定感」が低い自分は嫌いなのに、いつの間にか、それを言い訳にして便利な言葉として、使っていた。そうすることで、自分の嫌なところから目を背けていた。結局は自分の嫌なところを認めたくなかっただけだった。人の目線が怖くて、人前で話すことは大の苦手。今でもコミュニケーションをとるのが苦手。涙もろい自分が、きらい。マイナス思考で、常に不安が付きまとう。だけど、私の出した答えは、自分の嫌なところを抗うのを辞めることだった。諦めた。今までずっと理由を付けて逃げてきた。自分を正当化するのはその場しのぎにしかならなかった。自分の良いところも悪いところも全部合わせて、そういう私だからしょうがない、と諦めて受け入れた。良い悪い好き嫌い関係なく、それが私だととりあえず認めることにした。認めたらうえて、どう向き合っどう共に生きていくかを考えるようになった。苦手なことを変に言い訳せず、素直に苦手だから嫌だと言うようになった。自分の嫌な部分はそう簡単に変わらない。実際私は、涙もろいからこの文章を書きながら少し泣いたし、失敗したら、どうしよう、と悪い方にばかり考えていた。この経験が、この先の励みになると思っている。こんなネガティブな私だけ逃げずにやれば、できた。聞いている人にとっては、数分後、よくて数日後には忘れてしまう話かもしれないけど、本当は誰かに届いてほしいと思っている。これからも、ずっと自分の嫌なところは変えられないし、好きになることはない。なっただまるか、とも思う。人の目線が怖い、人前で話すことが苦手。涙もろい。マイナス思考。嫌いなところを、あげだすと、きりがない。けど、私を構成している大切なパーツだ。自分の嫌いなところは沢山あるけど、私は、私のことが、とても大切だ。だから、諦めて、そんな自分を認めて、共に生きていく。

川崎市立高津高校4年生 川口 和子 さん

『出会いと挑戦』

人生には「ああ、あの時がターニングポイントだった。」そんな「出会い」があります。昭和六十三年四月、私は家の近所のスーパーで買い物をしている時、三人の女性に声をかけられました。三人は働いてくれる人を探していました。スーツ姿のちょっと派手な三人の会社が、どんな会社なのかのぞいてみたくなりました。その会社に行ってみると、私に声をかけた三人とは違う、とても地味な女性がたくさん働いていました。「保険会社の営業職」と聞いて、悩みましたが、このまま専業主婦で、社会と距離を置いたまま生きていくのは悲しいと考え、新しい世界に挑戦することに決めました。朝から三才の娘を連れて出社するのは大変で、心が折れそうになる時もありましたが、まさかこの保険の営業の仕事三十年も続けることになるとは誰も思ってもみませんでした。初めはなかなか契約も取れない日々が続きましたが、名刺代わりのチラシを作り、挨拶やマナー、服装などにも注意して、どなたにも公平に接していると、段々顔と名前を覚えてもらうことができました。当たり前のことをしっかりやる、小さな積み重ねが、信頼へつながると確信しました。興味本位で入った会社でしたが、気付けば七十二才になっていました。体力もなくなり、もう仕事を辞めようと思った時、私は「これからどうしよう」と考えました。「何もせずに家にいたらボケてしまうかな?」「パートやアルバイト?」「それともカルチャースクール?」などと思いついて悩んでいる時、たまたま市の広報紙に目が留まりました。「夜間中学校・生徒募集」私は、すぐに電話をしました。「七十才を過ぎているのですが入れますか?」「はい、大丈夫です。」その言葉を聞いたとき、私の目の前がぱーと明るくなりました。しかし、次の瞬間、「本当に通えるのか?」という不安が沸き上がってきました。ずっと英語を学び直したい。そんな気持ちを持っていた私。三十年前、保険会社の女性に声をかけられたあの日の勇気を思い出し、入学を決めました。六十年ぶりの中学校生活は刺激に満ち溢れ、進化していました。昼間の生徒とともに行った体育祭。私は大縄に参加し、足をひねってしまい、無念のリタイアでした。文化祭では、日本文化に取り組み、歌舞伎勧進帳安宅の関の場面を演じ、私ははやし方の笛を担当しました。西中原中学校の夜間学級は様々な国の生徒がおり、先生方も根気強く、熱心に指導してくれました。楽しく刺激的な日々はあっという間に過ぎ、いつしか進路を考える季節になっていました。先生との面談の際に、「高津高校はどうですか?とても良い学校ですよ。」と言われ、私はまたすぐに見学に行くことにしました。勉強の楽しさに目覚め、勉強をもっともっと続けたいと思っていた私は、進学することを決めました。しかし、ここでまた、何とも言えない不安に襲われました。「私なんか通って迷惑ではないのか・・・。」「年齢の差が大きすぎて、他の生徒とコミュニケーションがとれるのか・・・」悩みは尽きません。でも、ここで立ち止まっては、と、勇気を振り絞って入試を受けました。入学して間もないある日、クラスメートの一人が、クラスのグループラインに誘ってくれました。何だか恥ずかしいような、嬉しいような、何とも表現しがたい気持ちでしたが、私の心は救われて軽くなっていきました。振り返ってみると、私が何かを決断した時、いつも誰かとの「出会い」がありました。その出会いに導かれ、私も様々なことに挑戦することができたと心から感謝しております。そして充実したJK生活も、気付けば四年目。卒業までのカウントダウンも始まりました。今のもっばらの悩みは、「高校卒業後はどうするか・・・」私の挑戦はまだまだ続きそうです。でも、きっと大丈夫です。また、新たな出会いが待っていることを信じているので。ご清聴ありがとうございました。